

『めぐみ・美旗ソーラーパーク (solar - park - MIHATA)』竣工におけるごあいさつ

謹 啓 厳寒の候、皆様方におかれましてはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。
また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび新日本輸送株式会社は、この度お伊勢様のある三重県で太陽の恵みをいただき、メガ・ソーラー発電事業に携わらせていただくことになりました。
ほんとうに大切な事業をお預かりしたと、その意義を改めて強く感じ、また緊張いたしております。

私たち日本人は、何千年もの間、太陽の恵みと水の力を米に変える事を生業として参りました。
それ故、お日様に、そして自然の恵みに心から感謝し祈り続けてきたと思います。

メガ・ソーラーが産み出す電力は、いわゆる産業の「米」のようなものです。
自然の恵みを新しい形でいただく事業と言えるでしょう。

我々、新日本輸送株式会社は物流を中核とした企業です。
事業を行ううえで、これまでたくさんのCO²を排出し、環境に負担をかけて参りました。運送事業会社が環境を考えたとき、ソーラー発電に取り組むのはある種の罪滅ぼしと考えております。地球環境に役立つ事業、また、地球にご恩返しをするためにと、取り組んで参りました。

本事業は、たくさんの方々のお力添えとご理解によって達成されました。
まず、この地域の方々の深いご理解とご協力なくしてはできないこととございました。
それ故に、地域にご恩返しをすることが目標の第一です。

話は少し違いますが、私ども新日本輸送株式会社が所属するノブレスグループは、いま、東北復興支援にも力を入れており、現在、大阪駅前の旧大阪中央郵便局跡地のイベントスペースで行われている「東北わくわくマルシェ」という東北支援のフード・物産イベント事業にも、企画立案の段階から全面的な支援と運営協力を行っております。
私が、震災直後に東北の釜石市に足を運んだときに、広大に広がる被災地のそばに災害から免れた地域がありました。
ところが、長期間、電力が届かないために、災害を免れた方々も大変なご苦勞をされました。
また、被災地の人々も電力が復旧しないことで、長い間我慢を強いられました。

地域に独立した電源がある事の意義は、普段はわかりにくいことかもしれません。
しかし、今後、南海トラフや東海大地震が起きたときに、沿岸部にある火力発電所は殆ど動かなくなる可能性を孕んでいます。



そういう最悪の事態になった時のためにこそ、このメガ・ソーラーが役に立つ、その理解の上に立って、この事業へのご協力が得られたのだと考えております。
最悪の時、そのような時が来ないことを祈っておりますが、万が一のために我々の事業の取り組みが重要だと、ご理解くださった地域の方々に、深く感謝したいと思います。

ありがとうございました。

これに答えるためには、万一に備えてしっかりとメンテナンスしていくことが大切です。それが、一番のご恩返しであると考えております。

さらに、この度はシャープ様、大和リース様をはじめとして、たくさんの事業者さまのお力を借りて、無事工事を終えることができました。
ご協力企業様にも、改めて深く感謝いたします。

シャープ様は、素晴らしい会社です。
太陽の恵みを少しでも効率よく、余すことなく、利用できるよう、日々研鑽されており、その取り組みは、かつてのお百姓さんが、営々と棚田を築き上げた姿とよく似ています。
それは、しっかりとした目的意識があり、誇りをもって取り組んでおられるからできる事だと思います。
それは、社員一人一人の方々が、何をする事で、どのように市民社会が、地球環境が変わるのかというビジョンをお持ちだからではないでしょうか。

そして、その意義を深く理解されている大和リース様が、いらっしゃいます。
今回のお仕事は、持続維持可能な環境社会の実現というグローバル・ビジョンを共有されているからこそ、ご協力いただけたと考えます。

こういった企業様と共に、事業を展開できる当社は、本当に幸せな企業です。
従業員一同、本当に心より喜んでおります。
そして、この幸運に甘えることなく、今後も切磋琢磨して参りたいと思います。

安全・安心な再生エネルギーの安定確保や、エネルギー自給率の向上に貢献するこの事業は、名張地域の活性化だけでなく、広く日本と世界の明るい未来づくりにも繋がるものと信じております。

今後とも、皆様、ご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

謹 白

平成26年1月30日

新日本輸送株式会社 代表取締役社長

川井 徳子

